

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市泉岳自然ふれあい館
2 指定管理者	株式会社オーエンス
3 指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
4 施設の利用状況	<p>《利用者数》 77,151人(前年度比 96.7%)          令和5年度 本館:32,217人、市民キャンプ場:7,972人、休憩コーナー:34,478人、古民家:2,484人          令和4年度 本館:30,442人、市民キャンプ場:8,923人、休憩コーナー:38,124人、古民家:2,270人          令和3年度 本館:25,367人、市民キャンプ場:6,865人、休憩コーナー:34,517人、古民家:2,223人</p> <p>《事業》          ○受入れ事業 本館:342組 延べ28,800人(小学校, 中学校, 子ども会, 家族, 幼稚園, 保育園, 他)          ○主催事業 54事業:延べ2,022人 ※ボランティア事業を含む          ○野外活動ボランティア事業 養成講座修了者:11名, 登録者74名, ボランティア支援69回 延べ243名</p>
5 収支の状況	<p>《費用》 ( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者に支払った費用 148,102千円 (146,572千円)</li> <li>その他市が負担した費用 4,999千円 (8,308千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用料金収入 7,682千円 (7,246千円)</li> <li>その他収入 32,138千円 (26,334千円)</li> </ul>
6 利用者の声	<p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者アンケート(R5.4.1～R6.3.31に実施)</li> </ul>

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	教育委員会が定める運営の基本方針に加え、指定管理者独自の基本方針が策定されており、その周知も行われている。また、集団宿泊活動や自然体験活動等の支援が適切に行われているうえに、積極的に泉ヶ岳及び周辺地域の特色を生かしたオリジナル商品開発や地元商品の販売も行っており、泉ヶ岳及びその周辺地域の活性化に大きく寄与している。	33/30
II 施設の運営管理体制	開館時間、指定管理料の執行状況等は仕様書に則っており適正である。個人情報保護及び情報セキュリティ対策については、必要な対策が講じられている。また、事故防止や災害発生時対策について、マニュアルが整備され、十分な対策が講じられている。	29/29
III 施設・設備の維持管理	建物・設備に目立った損傷は見られず、発見された不具合についても迅速な報告をはじめ適正な対応が図られており、利用者が安全に利用できる状態が保たれている。また、食品廃棄物を約20%削減するなど、環境負荷軽減について大きな成果を上げている。	25/24
IV サービスの質の向上	職員のマナーについては、マニュアルの整備、研修の実施等により適正である。施設の利用情報の提供については、ホームページやフェイスブック、Instagram、テレビ番組、リーフレット、新聞、フリーペーパー等幅広い媒体により周知が図られている。また、利用者アンケートを実施し、利用者の意見を取り入れた改善を検討する等、サービス向上の取組みも行われている。	28/28
V 施設固有の基準	主催事業の申込において、申込方法にGoogleフォームを取り入れることにより、予約の利便性の向上を図るとともに、仕様書の基本方針にも明記されている業務の効率化をより少ない費用で実現している。 また、野外活動ボランティアについては、仕様書のとおり適正に行われており、特に主催事業の参加者は前年比19.4%増と増え、仕様書の要求を満たしている。	23/22

### 三 評価総括

《指定管理者（株式会社オーエンス）による自己評価》
<p>令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行され、流行以前の運営に戻ったが、5月当初は感染を心配される声も多かったため、利用者の希望に沿った運営を心がけた。年間利用人数としては、目標の72,000人を超えて、77,151人の利用でありましたが、令和4年度の79,759人の利用より、約2,600人の減となった。原因としては、休日（土日祝日）の悪天候による市民キャンプ場の利用のキャンセルや冬季の雪不足による主催事業の中止が考えられる。今後も異常気象が続いていく可能性があるため、天候に左右されにくい活動プログラムの開発や主催事業の運営を行っていく。</p> <p>令和3年度から継続して実施している主催事業「泉ヶ岳自然ふれあい塾」では、不登校傾向にある児童生徒と保護者を対象に泉ヶ岳の自然の中でゆったりと過ごしながら、自由度の高い活動とふれあい館ならではの柔軟な対応をすることで、子どもの自主性や達成感を味わうことができる場の提供を行ってきた。令和5年度では、泉ヶ岳自然ふれあい塾の参加者の中から、児童のみが宿泊する「どきどき体験広場」への参加があり、社会的自立の一步として、貢献できたと感じられる成果があった。今後も継続して実施していきたい。</p> <p>年間14回行われるボランティアスキルアップ講座において、これまでは登山支援を中心とした研修内容で職員が年間計画を立てていたが、次年度に向けて充実した研修のあり方についてボランティアも含め話し合いを行った。それに基づき令和6年度は主催事業の支援に係る活動の研修やベテランボランティアと新人ボランティアの交流を含め、泉ヶ岳の自然の知識を深める研修などを実施しており、さらなる主体的なボランティア育成を進めていきたいと思っている。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行し、日常生活が少しずつ戻る中、利用者数は令和4年度に比較し3%減となった。</p> <p>これは、本館利用は増加した一方、市民キャンプ場や休憩コーナーの利用者が減少したため、第5類移行にともない余暇の多様化による一般利用客の減少に伴うものと考えられる。</p> <p>一方、主催事業は積極的な企画や開催数増もあり、令和4年度に比較し、参加人数は19.4%増加と盛況であった。</p> <p>また、令和4年度に引き続き、休憩コーナーの軽食堂及び売店において、泉ヶ岳及び周辺地域の特性を活かしたオリジナル商品の企画販売や地元商品の取り扱いを行い、泉ヶ岳及び周辺地域の活性化に寄与した取組みを行っている。</p> <p>さらに、昨年導入した主催事業のGoogleフォームを利用した申込を継続し、利用者の利便性向上を図るとともに、事務の簡略化を図っている。</p> <p>そのような種々の取組みにより、利用者が減少した中、収入は6,240千円18.6%増となった。この要因として、本館利用者増や大食堂の収入増、さらに主催者事業収入の87.9%増加が考えられる。</p> <p>そのほか、大食堂のメニューの工夫により、食品残渣が2トン減少したことをはじめ、廃棄物総量で3トンの減量することができ、環境に配慮した施設運営を行っていることは評価できる。</p> <p>コロナ禍で拡大したアウトドアブームは、落ち着きを見せる中、様々な取組みにより、収益を上げていることは評価することができ、今後も児童生徒の健全育成と一般市民利用者の生涯学習活動の振興の一翼を担っていく安心・安全な施設運営を行っていくことを期待する。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、引き続き、館内での感染防止対策に配慮したうえでの施設運営ができています。</p>

© 評価担当課(施設所管課):教育局生涯学習部生涯学習課